



柏陽中だより 6月号

令和6年5月31日(金)
さいたま市立柏陽中学校
岩槻区大字真福寺454
電話 048(798)6655

《学校教育目標》温かい学校 喜びあふれる学校(・自ら学ぶ生徒 ・心豊かな生徒 ・粘り強い生徒)

懸命に取り組むということ

校長 亀井 隆司

本年度がスタートして、はや2ヶ月が経過しました。生徒たちは、新しい学年や学級での生活にも慣れ、勉強や部活動、行事などにみんなで取り組んでいます。また3年生は最後の大会となる学校総合体育大会に向けて各部活動とも精一杯取り組んでいるところです。

さて、5月18日(土)に体育祭を実施しました。例年9月に実施していましたが、昨今の異常ともいえる残暑の厳しさによる熱中症対策として、1学期に開催することとしました。1学期に開催するとなると、準備する期間が短くなり学級の絆の深まりや、体育祭の運営自体が難しいという課題がありました。しかし、実際に行ってみると生徒たちの頑張りは見事でした。懸命に競技に臨む姿勢、自分たちで体育祭を運営しようとする意欲、声をからして仲間を応援する姿など、準備期間が短かったとは思えない充実した体育祭が実施できたと思います。ご観覧いただきました来賓の皆様、保護者の皆様、ありがとうございました。

先日、残念なニュースが飛び込んできました。詩画家である星野富弘さんが4月28日にご逝去されたというニュースです。ご存じの方も多くいらっしゃると思いますが、星野さんは大学で器械体操に打ち込み、その後、群馬県の中学校の保健体育教員として赴任しました。体操部の顧問となりましたが、部活動の指導中の事故で首から下が動かなくなってしまいます。誰よりも体を動かすことが好きで、運動が得意だった星野さんにとってはどれほど希望を失ってしまったかわかりません。しかし、様々な葛藤がある中でも動かない手足のかわりに口に筆をくわえ、字を書き始め、やがて詩や絵を描くまでとなりました。そこには星野さんを献身的に支える母親の知野(とも)さんの思いや、星野さん自身の懸命に力強く生きていこうとする気持ちがあったのではないかと思います。

私も保健体育の教員として長く生徒たちと授業や部活動を行ってきましたので、星野さんの生涯からたくさんのことを学んだ気がします。体育活動の安全面はもちろん、健康について、日々の感謝、家族への思いなど……。そして何より、自分のできる限り懸命に取り組むということの大切さを学ばせていただきました。

星野さんの作品が本校の図書館や地域の図書館にありますので、探してみてください。

<星野富弘さんの作品>

神様が たった一度だけ
この腕を動かして下さるとしたら
母の肩をたたかせてもらおう

風に揺れる ペンペン草の
実を見ていたら
そんな日が本当に
来るような 気がした

木は自分で
動きまわることができない
神様に与えられたその場所で
精一杯 枝を張り
許された 高さまで
一生懸命 伸びようとしている
そんな木を
私は友達のように 思っている

握り飯を 食って
立ち上がれば 尻の下に
すみれの花が
つぶれていた
握り飯をつくってくれた
親の心も 足元の花も
気づかずに歩いていた
青春の日

